

塙 保己一

Hanawa Hokiichi

闇の中で情熱を燃やし、
日本文化の歴史に光明を与えた国学者。

困難を乗り越え 学問の道へ

塙保己一は、1746年、現在の児玉町保木野に生まれました。7歳のときに病で失明してしまいます。さらに、12歳のときに心の支えであった母を亡くし、途方にくれたが、幼い頃から好きであった学問への思いが捨てきれず15歳で上京しました。

江戸での現実は厳しく、当初は、あんま・はりの仕事や三味線・琴の修行ばかりで、好きな学問をさせてもらえず、自殺を考えたこともありました。しかし、学問への情熱を持ち続け、努力を積み重ねた塙保己一は、その後、学問の道へと進んでいくのでした。



▲塙保己一旧宅(国指定史跡)
塙保己一が生まれた、茅葺入母屋造民家



▲温故学会に保存されている群書類従の版木(東京都渋谷区)

驚異の記憶力 崇高な精神

塙保己一は1779年に「群書類従」の出版を思い立ちます。これは、消失・散逸のおそれのある貴重な国学資料を厳正に校正して分類ごとに整理したものです。これに役立ったのが、6万冊の本をすべて覚えていたといわれた塙保己一の記憶力です。また、世のため後のため「役に立ちたい」という強い思いと清廉潔白人柄に思いを寄せた多くの人の協力により、1819年に群書類従は完成しました。その2年後、塙保己一は、盲人としての最高位である総検校となり、同年9月12日に76歳で亡くなりました。



▲塙保己一の墓所(左)と百年祭記念碑(右)(児玉町保木野)

墓には戒名「和学院殿心眼知光大居士」と和歌一首が、記念碑には渋沢栄一の書(題額)が刻まれています。



▲塙保己一が江戸に出るときに身に着けて行った母手縫いの巾着(塙保己一記念館所蔵)

「私は特別の思いをもって、

埼玉にやっつてまいりました。

それはつらくて苦しいときでも、

この埼玉ゆかりのハナワ・ホキイチ先生を
目標に頑張ることができ、

今の私があるからです。」



▲東京都渋谷区の温故学会で尊敬の念を口にしながら塙保己一像に触れるヘレン・ケラー

温故学会

公益社団法人温故学会は、塙保己一の業績やその人物を広く伝えるため、ひ孫の塙忠雄や渋沢栄一らにより設立されました。群書類従の版木の保存や塙保己一の偉業の顕彰を行っています。

奇跡の人

ヘレン・ケラーと塙保己一

ヘレン・ケラー(1880-1968)は、3つの障害(見えぬ・聞こえない・話すことが困難)がありながらも懸命な努力で障害を克服し、その生涯をかけ、教育・福祉そして世界平和に尽力してきました。ことで世界的に知られています。

上記の言葉は、ヘレン・ケラーが来日したときに、講演会で語った言葉です。

塙保己一は、ヘレン・ケラーにとって、障害を克服し、希望を持つて生きることや、努力することの意義を与え続けてきた特別な存在であったのです。



▲ヘレン・ケラーが触れた塙保己一像

保己一の逸話

固い意志と努力の人

ある晩のこと、いつものようにある武士の奥方の腰や肩をもんであげ、お金をもらうかわりに、本を読んでもらっていました。蚊帳の中で読む奥方は、彼が蚊帳の外で両手をひもで縛り、じっと聞いているのに気がきました。奥方がどうしたのか尋ねると「蚊に気をとられると、せっかく読んでいただいた本の内容を聞き忘れてしまうからです。」と答えたのです。それに感心した奥方は、ご褒美に「栄華物語」を買って与え、塙保己一はそれを生涯大事にしたそうです。

ヘレン・ケラーも愛したユーモア

ある晩、いつものように弟子たちが集まり、塙保己一から源氏物語の講義を受けていたときのことです。突然吹いてきた風でローソクが消えて真っ暗闇になり、弟子たちは慌てました。事態を察した塙保己一は、ユーモアたっぷり、そして余裕たっぷりに、こう言いました。「目が見えるということは、不便なものです」と。ヘレン・ケラーはこの話をとても愛していました。

塙保己一の歩み

1746年 1歳

5月5日、武蔵国児玉郡保木野村の百姓、荻野宇兵衛の長男として生まれる。幼名は、寅之助。

1752年 7歳

病気で失明。辰之助と改名。

1760年 15歳

江戸に出て、雨富検校の門人となる。名を千弥と改める。

1761年 16歳

思いどおりにいかず自殺も考えたが、後に雨富検校に学問への道に入ることを許され、歌学や神道を学ぶ。

1763年 18歳

名を保木野一に変える。

1775年 30歳

勾当に昇進。雨富検校の本姓である「塙」を名乗ることを許され、塙保己一と名乗る。

1779年 34歳

「群書類従」の出版を決意。

1783年 38歳

検校に昇進。

1789年 44歳

水戸藩による「大日本史」の校正に加わる。

1793年 48歳

日本で最初の国学専門機関「和学講談所」を設立。

1819年 74歳

「群書類従」を完成。

1821年 76歳

総検校になる。
9月12日死去。

memo

「当道座(盲人の職業組合のような組織)」では、上から、検校・勾当・衆分・打掛など、細かく73段階の階級があり、検校には、ほんの一握りの人しかありませんでした。